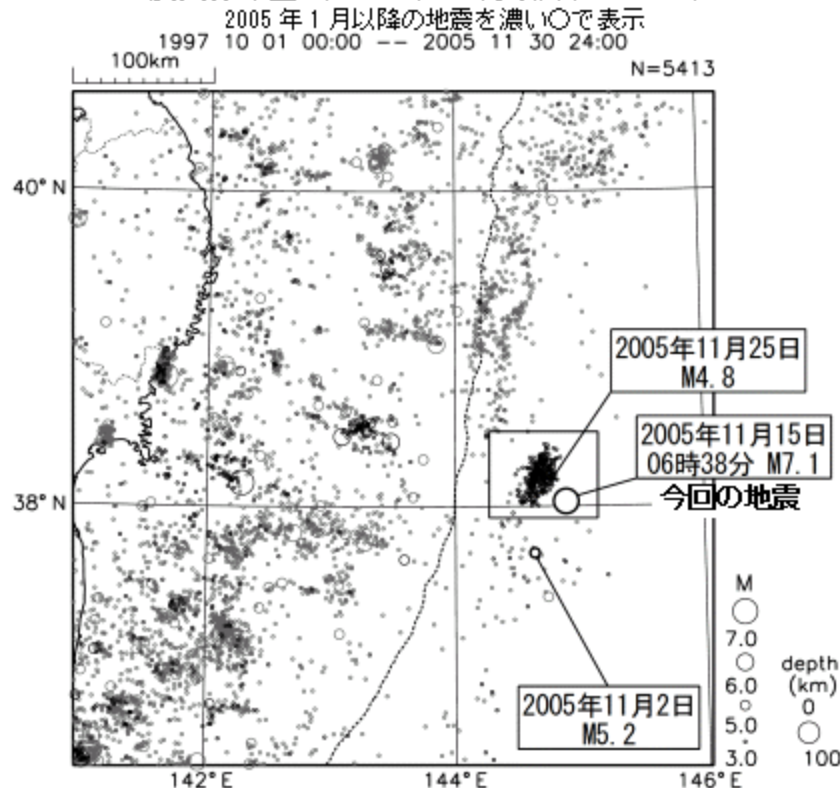


11月15日 三陸沖の地震

A 震央分布図 (1997年10月以降、 $M \geq 3.0$)

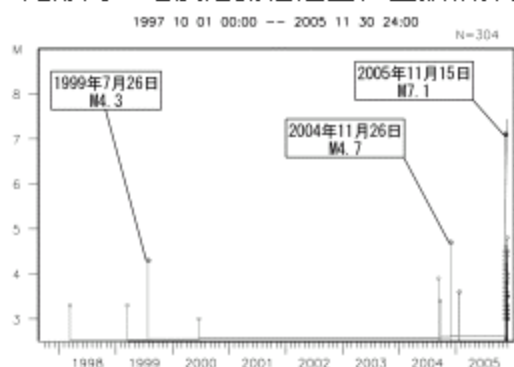


2005年11月15日06時38分に三陸沖でM7.1(最大震度3)の地震が発生した。深さは浅いと推定される*。発震機構は、東西方向に張力軸を持つ正断層型であった。余震活動は順調に減衰している。

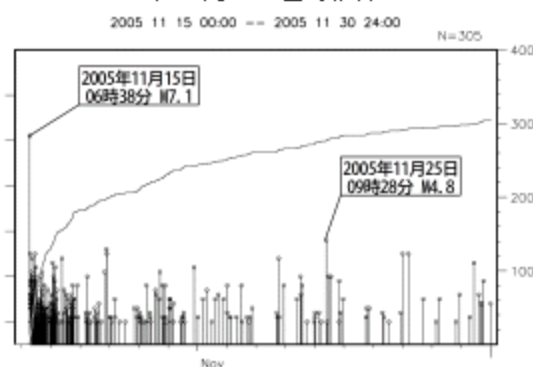
1997年10月以降の活動を見ると、この付近では、南側で2005年11月2日にM5.2(最大震度1)の地震が発生しているが、その他は目立った活動はない。矩形内では、最大のものが2004年11月26日のM4.7の地震である。(A)

*) 計算結果では83kmになるが、震源が沖合いのため震源決定精度が確保できない。震央の位置や津波が観測されたこと等から、深さは浅いものと推定される。

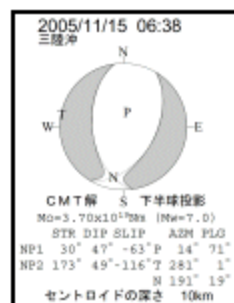
矩形内の地震活動経過図、回数積算図



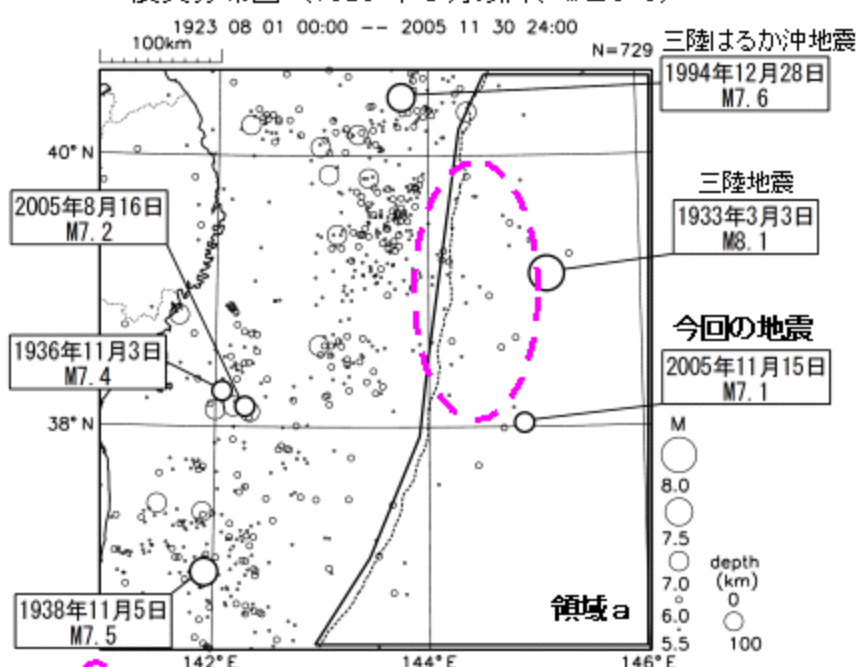
矩形内の地震活動経過図、回数積算図 (11月15日以降)



今回の地震の発震機構 (CMT解)

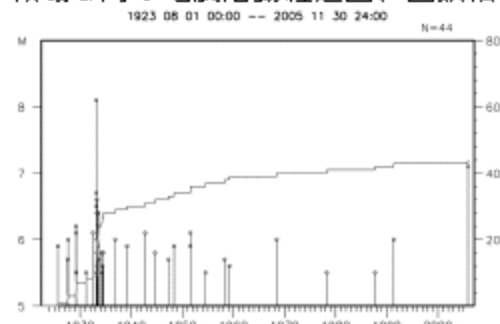


B 震央分布図 (1923年8月以降、 $M \geq 5.5$)



1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震源の北、約120km付近で、1933年3月3日にM8.1の地震(三陸地震)が発生している。しかし、海溝軸の東側(領域a)では、他に目立った地震は観測されていない。(B)

領域a内の地震活動経過図、回数積算図



は三陸地震の震源域 (地震調査委員会による)